

II 小学校国語科における実践研究

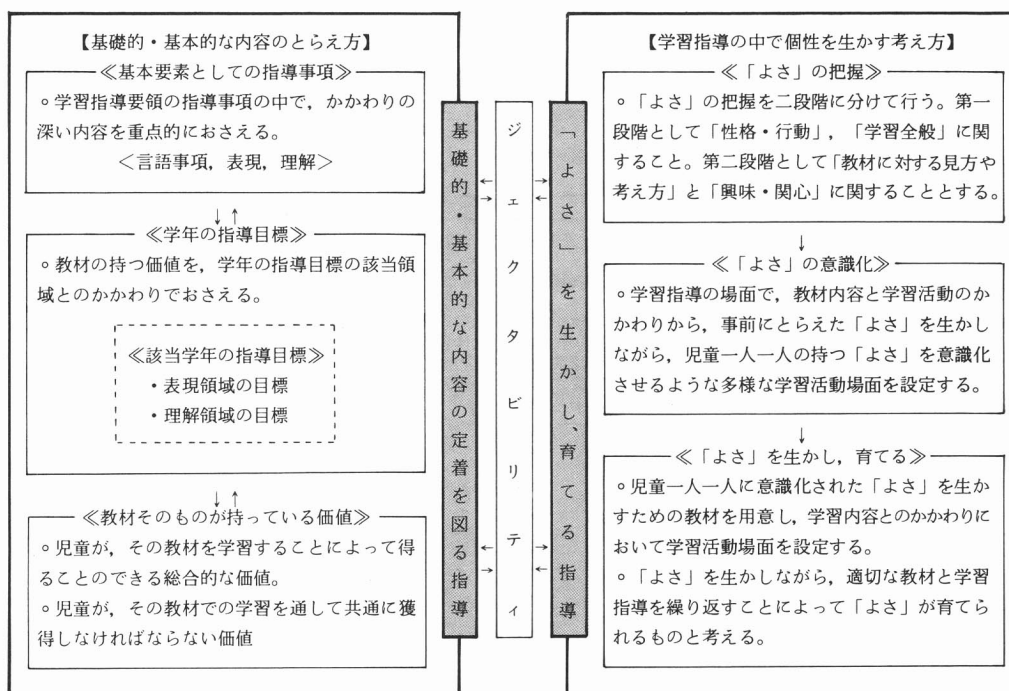
1. 国語科における研究の仮説

(1) 「基礎・基本」、「個性」とそのかわりについて

小学校国語科の実践の中で、基礎・基本と個性、そしてそれらのかかわりについて次のように考えた。基礎・基本は、基礎的・基本的な内容とし、その内容を下図のようなとらえ方をした。個性は、「よさ」ととらえ、学習指導の中で「よさ」を生かす考え方を下図のようにした。

基礎的・基本的な内容が定着し、児童一人一人の「よさ」が生かされ、育てられていく過程においてジェクタビリティ（判断力、表現力、創造力、思考力等の能力）が深くかかわりを持つと考える。

つまり、基礎的・基本的な内容の定着を図る過程において、「よさ」を生かし、意識化させる場を設定すれば、ジェクタビリティが刺激され、それぞれが相互に作用し合うことによって、基礎的・基本的な内容の定着が図られ、「よさ」が伸ばされ、育てられていくものとする。



(2) 研究の仮説

小学校国語科において、「基礎的・基本的な内容」と「よさ」を以上のようにとらえ、研究の仮説を次のように設定した。

国語科学習指導において、児童一人一人の持っている「よさ」を把握し、学習内容とのかかわりで教材に対する見方や考え方、興味・関心を生かす指導の在り方を工夫すれば、自分なりの「よさ」が意識され、さらに「よさ」が生かされることにより基礎的・基本的な内容を身につけさせるとともに、一人一人の「よさ」を伸ばし、育てることができるであろう。